

小田利吉氏が逝去 (享年85歳) 地域の労働・民主運動で活躍 県自治労表彰の時の挨拶で故人を偲ぶ

旧藤島町の元職員である小田利吉氏が8月16日逝去されました。(享年85歳)。

地域の労働運動や民主運動の指導者として活躍され、多くの後継者を育て、たくさんの人から「小田さん」呼ばれて頂いた」と慕われた人でした。

故人を偲び、11年前の2004年11月20日に開催された藤島町職員労働組合50周年記念で、県自治労の表彰を受けた小田利吉さんの挨拶(全文)を掲載します。(中身は編集部)

年甲斐もなく胸がときめき

本日は藤島町職員労働組合50周年記念式典にご案内いただき、また、県自治労の表彰をいただき大変ありがとうございます。

共に受賞された方々を代表して心から御礼



申し上げます。

式典が始まる前には、茶道サークルの皆さんからお茶のおもてなしを受け、大変なつかしく、年甲斐もなく胸がときめくような美しい姿に感激しました。

町村に先駆的に職員労働組合を結成

私は、町職労50年の歴史のなかで、どうしても皆さんに語っていただきたいことがあります。

その一つは、50年前に町村合併で現在の藤島町が誕生したとき、合併と同時に役場に職



在りし日の小田利吉さん

員労働組合を結成したことです。

当時は県内の町村で労働組合がほとんど無かったのです。

私たちの先輩がいかにも先進的だったかを物語っています。

職員の首切り反対闘争

多額の借金を持ち込んで合併した藤島町は、このままでは町の財政が破綻してしまうから人件費の大幅な削減をしなければならぬとして、当時の3月議会に職員定数の大幅削減をする条例が提案されました。

私たちはこれを許せば大変なことになるとして直ちに反対闘争に立ち上がりました。

「住民福祉の現場で働く職員の首を切って町の財政を再建する」などということは絶対

許せない、こんなやり方では町民に喜ばれるまちづくりはできるものではないと、団体交渉を繰り返し、広く町民や町会議員に訴えるなどして頑張りました。当時は今と違って上部からの指導もなく、何をするにもすべて自分たちで考え、知恵を出し合っていました。

労働者が団結して闘うということはどういうことなのか」を教えてくださいました。この一言がその後の私の生き方を決定づけたといってもよいのです。

胸に「首切り反対のりポン」を下げるりポン闘争も考え出しました。

臨時職員の正職員化に

当時の課長さんたちも組合員でしたので、課長さんたちが「首切り反対」の黄色いりポンを胸に付けて議会に出席するまで発展しました。

この闘いがその後、合併時の職員給与の格差を是正させ、男女差別の解消、臨時職員の正職員任用をはじめ、さまざまに闘いで県内でも藤島町に学べと言われるような実績を上げていく土台となったと私は思っています。

委員長のお前を首切りにする

この闘いの最中、団体交渉のときに町長から「そんなにみんなをかばうなら委員長のお前の首を切る」といわれました。

その時私は一瞬真っ青になったことを今でもはつきり覚えてます。

私は自分が首切りになるわけがない、人のために闘っているんだという思い上がりがあったのだと思っています。

その時の太田傳内町長の一言が、私に「労働組合とは何であるか、

藤島町は破綻しました。

むしろ、地域住民と広く共同しながら進める町職労の闘いが、その後の福祉と教育、農業を大切に革新町政に発展する力になったと思っています。

これらの闘いの伝統を受け継ぎ、発展させてきた藤島町職員労働組合の皆さんに心からの敬意を表すると共に、藤島町職労の歴史が50年で終わりにならないことを祈念してご挨拶と致します。

本日はどうもありがとうございました。
(2004年11月20日)

民報藤島1000号記念の会 「生活の一部だから」継続発展を



左から、佐藤誠一氏、加藤鉦一市議、阿部誠三川町長、鈴木重雄氏、太田榮市氏

榮市氏は「一口に1千号というが大変な努力だ。私は毎朝時間をかけて新聞を読む習慣だが、民報藤島は生活の一部になつてきているからぜひ継続発展してほしい」と期待が述べられました。

日本共産党鶴岡地区委員長の佐藤誠一氏と関徹県議があいさつし、鈴木重雄さんが「戦前の悲惨な日本を繰り返してはならない」と述べ、乾杯の音頭で祝宴に入り、和やかに懇談されました。

府を批判。

8月30日、「戦争法案廃案・安倍政権退陣！国会10万・全国1000万人行動」が行われ、私も妻と鶴岡集会（286人）に参加した。

「私は今までこういう集会に顔を出したことはほとんどありませんけども、今回だけは、何としても、いい加減で、バカげた、そして危険な法律を阻止するために何としてもみんなで力を合わせないと

いけない。それを阻止して、安倍政権を退陣に追い込む、そういう思いの中でみなさんの前に立ちました」とデモを激励した小沢一郎氏。

参議院では、政府がまともな答弁が出来ず、審議中断が77回、審議途中で散会するという異常さ。ここまでポロポロになった法案は廃案しかない」と志位共産党委員長が談話。



「侵略」は自分の口では認めない

あれじゃ胃も悪くなるわなあ。どんな聞き方をして日本が侵略したことも植民地支配したことも、自分の口では認めないのだから。

▲変なところでゾッパルから咯血もするんですヨ。週刊誌に正しくない部分があるからと取り消しを求めたとあったが、事実でないとは書いてないから血は出たんですよ。

▲あれじゃあの談話は世界に喧嘩を売ることになるでしょうや。なぜなら、あんなに語っても自分は別だとなつたからだ。一定の評価をくれたようだった韓国の大統領だつてこれじゃ困るじゃないの。

▲オバマさんだつて黙つてはいられなくなると思うなあ。歴史問題で思いを一緒にしなくではの中国・韓国は、猛反発にならないのかしら。歴史認識の話し

のために地域の発展に頑張つてほしい」と激励の言葉がありました
元藤島町議長の太田

鶴瓶さん「戦争法案ダメに カンパイ！」「9条譲つたらあかん」

—「しんぶん赤旗」を読んで 青山崇

しんぶん赤旗8月13日付「テレビ・ラジオ」
東海テレビ、樹木希林さんと対談。「いま変え

の政府がああいう方向に行つてしまつていうのは、止めないと絶対ダメなこと発言。さらに変えなあかん法律はいっぱいあつても、戦争放棄っていうのは、絶対そうなんですから、あの憲法9条は譲つたらあかん」とのべました。樹木さんも「70年も戦争をしないですんだのはあれ9条があるからと応じました。

鶴瓶さんは法案をめぐる状況について、「違憲やといつてる人たちがこれだけ多い」と指摘。その上で「民主主義を決めるなら、違憲がこれだけ多きと多いほうを取るべきですよ。それなのにへんな解釈して向こうへ行こうとしてるんですから」と政府のやり方を批判しました。
東海テレビのこのシリーズは13、14日は深夜に、最終回は15日正午に放送されます。

「民報藤島」1000号記念の会が8月29日、藤島駅前町内会館で開かれ、約40人の読者が参加しお祝いの言葉が述べられました。
加藤鉦一市議とは庄内農業高校と鯉渕学園（茨城県水戸市）で同期だった三川町の阿部誠町長が最初に祝辞を述べ、「ネットで毎号必ず目を通している。自立と合併との違いはあるが、共に連携し、住民

鶴瓶さん戦争法案を 厳しく批判 テレビ番組

タレント・著者の笑福亭鶴瓶さんが、8日の東海テレビ番組「ローカル」で、安倍内閣が成立をほかにうとしてる戦争法案について、「止めないとダメ」と厳しく批判しました。

番組は樹木希林さんが進行役の6回シリーズ「ドキドキメンタリーの旅（第一）日8日。戦争をテーマにこれまで作られたドキュメンタリー番組を放送した後、樹木さんがゲストと対談します。



笑福亭鶴瓶さん

「9条譲つたらあかん」「へんな解釈だめ」

しんぶん赤旗8月13日付

▲国会を一日開くと三億円もかかるというから、もつと分かり易くしてもらわんとねえ。（石川）